

# 宗谷

## 宗谷教職員組合

「宗谷情報」No.12 平成28年11月21日発行  
発行責任者：高 一伸

〒097-0004 稚内市緑2丁目4-21 宗谷教育会館  
Tel 0162-22-2480 FAX 0162-22-2484  
web : http://www.soya-teachers.org Mail : info@soya-teachers.org

大-18  
こ-37



### 賃金確定交渉、前進回答も。

# 組合の意義、 「」にあり！

一月一七日に、賃金確定交渉がありました。交渉結果についてはすでに分会や支部で学習をしていることと思います。今回の交渉は、給与改定の面で労働組合の存在意義が発揮されました。今回の宗谷情報では、要求実現について考えていきます。

## 賃金確定交渉の「現場」

賃金確定交渉では、様々な労働組合や教職員組合が交渉を行います。主なものには道庁職員による労働組合（自治労・全道庁）や北教組、そして私たち道教組・道高教組などがあります。賃金問題など道や道教委が提示するものに対する交渉課題を中心に、独自課題も織り交ぜます。



道教委との交渉は、事前の「折衝」によって課題が整理されます。他府県の交渉は行政側・組合

側ともにすべてアドリブで行われる場合もあるようですが、北海道の場合は「折衝」で発言内容が整理されます。だからこそ、「現場発言」と「委員長による冒頭と最後のまとめ」が重要になります。このふたつは、アドリブによって行われます。そして、これらの発言を後押しするのは、分会や各支部での教育活動だったり組合づくりの観点に立った集团的議論です。

勤務時間外職場集会の際に「ひとこと要求書」をお願いしているのも、現場の声をまとめ、今後の交渉に向けての原動力にするためです。学校づくりの現状や、働き方のリアルな部分を交渉の場に——そうした意味合いを持っています。

**ひとこと要求書は24日までに宗谷教組本部へ**

数年前まで行われていた「独自削減」が終わって、賃金確定交渉では「道人事委員会」を基準に賃上げがされるかどうか、私たちの働き方の課題はどう改善されるのかということが問われる一方、道教委は段階の在り方をベースに判断するので、「道の判断で改善」という回答はなかなか引き出せません。一方で、私たちの働き方

### 要求があるから改善する！

今回の賃金確定交渉では「道教委は、道人事委員会の勧告どおりの賃上げをす

の問題の中でも「賃金」という生活に直結する課題に対する向き合い方が問われるようになったとも感じます。

交渉の過程で、「秋の台風被害で道予算を予定外に使う」という理由で、道人事委員会の勧告通りに賃上げが行われない可能性が浮上りました。これに対して各労働組合などが一斉に反発。結果的に、勧告通りの賃上げとなりました。このことは、労働組合や教職員組合の役割、そして私たち教職員の願いを汲み取り交渉を通して要求する

ことの意義を物語っています。

「なかなか要求は実現しない」と言われることもありますが、そんな中で、改めて「組合」という存在について考える機会になる交渉となりました。

## 組合づくりを考える世代別懇談会

# みんなで作る、この組合の「下」。

宗谷教組

宗谷教組の活動は歴史が深く、多岐にわたります。そのため、活動の見え方や今後に対する思いは世代によって様々です。こうした課題意識から、「組合づくりを考える世代別懇談会」を行うことにしました。第1回の懇談会は、四十〜五十代のみなさんを対象、一〇名の先生方が集まってくれました。

### 最近の「いすざ」を乗り越える

まずは、自己紹介を兼ねて「印象に残った組合活動」を話す中で、対比的に今日的な課題が見えてきました。それは、社会情勢が激しく変化する中で、組合の「発信力」でした。働き方の問題や、教育内容に関することなど文部科学省や道教

## 12月15日(木)は組合費引き落とし日です。

いつも組合費の納入にご協力をありがとうございます。組合費は毎月25日に登録いただいた口座からの引落としになっていますが、6月・12月(手当月)は、定例の引落としとは別に、引き落とし日を設けています。12月15日は、12月手当分の組合費引き落とし日です。「**いつもの組合費+3,000円**」の金額が納入金額となります。残高の確認等、ご確認をお願いします。

### ほんものを 見つける「運動」は、 大変なんだ！

例えば「へき地級地を守る取り組み」や「民主的學校づくり」などの今日に続く運動は、長い歴史の中で先輩の先生方が意義やねらいを整理してきた経過があります。同時に、そうした意



義などは、対話活動などの「運動」があつて形作られてきたということです。署名や対話活動は、今日的には大きな負担が多い活動と捉えられがちです。しかし、諸先輩の先生方が進めてきた「運動」の「大変さ」があつたからこそ今日の財産となつている……ということが語られました。一方で、各学校では現実的な課題を受け止めながら組合活動が行われていることも語られました。このふたつの側面の狭間で、いま私たちはどうしていくべきか考えさせられました。

2017年1月7日～9日

**全国障害児学級・学校学習交流集会**

私たち宗谷教組が結集している全国組織「全教」では、職種別・課題別などで様々な学習交流集会を行っています。その中のひとつ、障害児教育に関する全国規模の学習交流集会が冬休み中に札幌で行われます。

特別支援学級を担当していない先生方の学びにつながる内容になっています。宗谷教組では、この学習交流集会を、全道・全国の教育実践から学ぶ大切な機会ととらえ、次のように対応をします。

**ぜひ、積極的な参加を！**

学習交流集会は3日間日程です。しかし、すべての日程への参加が厳しい場合もあると予想されることから、「1日参加」「2日間参加」も含めて柔軟に考えます。

**宗谷教組から旅費補助あります。**

宗谷教組から「研修資金」として、組合員のみなさんが参加される際には、旅費を補助します。

くわしくは、チラシをごらんください。  
申込みは、宗谷教組本部までお願いします。

十一月五日～六日に、江別で合同教育研究全道集会が行われました。

当日の札幌地方はものすごい雪でした。宗谷から参加の皆様は運転など大変だったことと思います。

土曜日朝のテーマ討論。若者・学習交流企画では利尻・仙法志中学校の相座拓己先生が話題提供をしました。中では、利尻支部の取り組みである教育講座についての言及も、7月に初めて実施された企画に対する

熱い思いと、今後の継続についての意欲が語られました。

また分科会では、宗谷からレポート発表は十二本。レポート発表されたみなさんからは「丁寧に討論してもらってありがたかった」「これからの実践のヒントを得ることができた」「実は初めての参加。大変勉強になった」「高校の先生の専門的な見方から指導案を検討してもらえた」など感想を聞くことができました。



盛り上がった交流会の様子

交流会では、宗谷のほか、道教組執行部、釧路（全釧路・高教組釧路支部・教育大釧路の先生）、網走、などが集まってくれました。

宗谷教組に加入している先生方からは「道内の先生方とも組合のつながりで交流したいな」という声をよく聞きます。ただ、北海道は広いのでなかなかそうした機会は持てません。だからこそ有意義な機会になりました。また何かの機会にこうした場を持てれば…と感じました。

**実践を学ぶ楽しさを実感  
合同教研**

宗谷から30名の参加、ありがとうございます！

**宗谷教組 12月の学習会は…****教員採用試験学習会**

10月から教員採用試験学習会を始めました。

10月・11月と5名程度の参加です。直前の時期よりは少ないですが、一般教養・教職教養を中心に、先生として身に着けたい力についても学ぶ内容になっています。

冬なので、なかなか集まりづらい環境の中でもコツコツ続けていきます。

**12月5日(月) 19:00～20:30 宗谷教育会館にて**

参加費 組合員は無料。未組は1回 1,000円

**青年部学習会「センたま」**

11月の学習会は、13名が集まり学び合いました。

参加されたみなさんからは「勉強になった」という声はもとより、『今度はこんな学習したいなあ』という声も聞かれるようになりました。



**12月センたま テーマは「リーダーを育てる」**

**12月10日(土) 14:00～16:00、**

**稚内北星学園大学にて**



▶アメリカではトランプ氏が次期大統領に就任することが決定、国内ではTPP関連法案が衆議院を通過し、憲

法審査会が動き始めています。めまぐるしい社会の変化に合わせて情勢を理解していくことのしんどさを感じる方もいるのでは？

▶それはきっと情報化・IT社会がもたらしていることでもあるのかもしれません。スマホでシュシュッと情報が入るようになった反面で、「新聞を読まない」という話も昔よりよく聞くようになりました。みなさんのまわりではどうでしょう。

▶こうした時代の変化の根底には、新自由主義という考え方が私たちの身の回りに浸透している事実があるのでしょう。貧困と格差、競争社会、思考や反応を拒否することや意見を言うことへの無力感（反知性主義というそうです）など具体的には様々です。

▶なんとなく元気が出ないこの時代、「こんなふうにしていきたい」というのは教職員組合運動が得意とするところ。10月末の世代別懇談会では、「もっと声を出していったらいい」という意見に組合の元気を見ました。

▶朝日新聞11月19日の「声」欄には、これからの世界に対して不安に思う広島県の中学3年生の文章がありました。

私はいま、本当に不安だ。世界がどうなるか、全くわからない。世界で何が起ころか分からない。当たり前の幸せを、手に入れることができなくなるかもしれない。

それでも、生きていかなければならない。何があっても乗り越えられる、知識と心を持たなければいけない。それだけは、本当だと思う。

▶子どもたちの未来に寄り添う私たち。だからこそ、学び考え合うことをつかんで離しちゃいけないんだと考えさせられます。(naity)